

三備・今治の各産地内の擦糸業が、厳しさが指摘される景況の中でも健闘している。受託機能の高度化、新市場開拓、自販事業展開など各社の方針は多岐にわたるが、国内産地の中にあるという利点を生かしながら、厳しい淘汰(とうた)の時代を経て蓄積してきた独自のノウハウを活用することで、将来への展望を描きつつある。

二備・今治の擦糸業

小橋(岡山県倉敷市) けでなく産業資材用途に
 萩田擦糸(同)では産も受注を拡大しており、

多品種小ロットの受注対応に貢献している。現在、和(びんわ)の営業活動同産地のデニムメーカーを強化している。2月開は独自企画の開発意欲が催の「ジャパン・ヤーン



産地ごとにノウハウが豊富に蓄積されている(写真は丸智産業)

今こそ擦糸

業資材用途の受託が拡大 堅調な業績を続ける。している。小橋は大口トの安定した受託ができ

高く、同社へのサンプル依頼も増えている。備後擦糸(同)は、和やニッターなど約30社への提案を進めている。

さか、萩田擦糸は「白いタオル」の高付加価値化をのめ無擦糸加工なラーツパッケージで提供

自社の生産設備を活用し、試織や試編みを経ての改良や専用糸の販売などにも迅速に対応できる点も訴求している。ウェブサイトで情報発信を充実させるなどにより備和の知名度向上を図る。

各産地で導入が進むエ

小ロットへの対応という点では、備後産地の森川擦糸(広島県福山市)も似た環境にある。同社は古くよりロールから

アジャット織機などによる高速織布では、糸の品質が問われることが多

各産地の擦糸業は異素材や番手の違う単糸、またはその両方の組み合わせなど、幅広いノウハウを蓄積してきた。どのよ

各社独自の戦略を示す

TATSUBO

GTII テネシー

- アメリカテネシー綿を100%使用しています。
- 擦リトルクが少なく斜向がおさえ

うな擦糸を行うかによって、製品特徴は大きく変わる「丸智産業の越智龍三氏」「高付加価値化の盲点といえる工程」(森川擦糸の森川康路社長)との声に

代表されるように、織布、編み、加工での高付加価値化に、さまざまな特殊擦糸加工を加えることで、さらにバリエーションを拡大できるはずだと指摘する。

現状は受託加工が中心となっている擦糸業も、ノウハウの提供や企画提案に積極的な姿勢を示している。国内での高付加価値企画の充実と寄与したという擦糸業の意欲が高まっている。